

令和3・4年度 長崎県教育委員会指定
令和3・4年度 壱岐市教育委員会指定

ふるさとの新たな魅力を創出する
キャリア教育実践事業

研究紀要

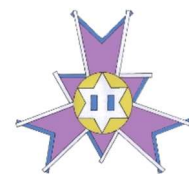
研究主題

「豊かな人間性」を育み、「確かな学力」を身に付けた生徒の育成
～地域と協働したキャリア教育の実践を通して～



令和4年12月9日（金）

壱岐市立勝本中学校



目次

はじめに	・・・・・・・・・・ P	2
I 本校の研究構想		
1 研究主題	・・・・・・・・・・ P	3
2 主題設定の理由	・・・・・・・・・・ P	3～4
3 研究主題の捉え方	・・・・・・・・・・ P	5
4 研究仮説	・・・・・・・・・・ P	5
5 研究の内容	・・・・・・・・・・ P	5
6 検証の方法	・・・・・・・・・・ P	6
7 研究組織	・・・・・・・・・・ P	6
II 実践内容		
1 1年生の取組	・・・・・・・・・・ P	7～10
2 2年生の取組	・・・・・・・・・・ P	11～13
3 各教科等での実践内容	・・・・・・・・・・ P	14
III 学習指導案	・・・・・・・・・・ P	15～19
IV 成果と課題	・・・・・・・・・・ P	20～23
おわりに	・・・・・・・・・・ P	24
研究同人	・・・・・・・・・・ P	25

はじめに

本日は、壱岐市立勝本中学校の研究発表会に御出席いただき、誠にありがとうございます。ごめいす。

本校は、令和3年度から2年間、長崎県教育委員会および壱岐市教育委員会の研究指定を受け、『「豊かな人間性」を育み、「確かな学力」を身に付けた生徒の育成 ～地域と協働したキャリア教育の実践を通して～』を研究主題に掲げ、研究を進めてまいりました。

壱岐市は、2018年6月15日に、「SDGs未来都市・自治体SDGsモデル事業」（全国で9都市）に選定されました。このことを受け、2019年度より、壱岐市SDGs未来課・一般社団法人壱岐みらい創りサイト・住環境計画研究所等が、壱岐市内の中学1年生を対象に、SDGsの学習「住みつづけたいまちづくり運動」の取組が始まりました。この取組は、SDGsについて知り、壱岐を住みつづけたいまちにするために自分たちに何ができるかを考え、実現に向けた行動の一步を踏み出すことを目的とした活動です。

本研究では、これまで壱岐市や地域と協働して取り組んできたSDGsの取組を核とし、自然豊かなふるさと壱岐、そして私たちのまち、勝本の魅力を創出することを探究してまいりました。

研究2年目となる今年度は、テーマを「発信」として、壱岐の環境、特に「海」に視点を絞り、新たな課題を探究し様々な方法で発信しています。その取組の一つとして、この実践を、壱岐市と同じ「SDGs未来都市」である熊本県小国町立小国中学校と共有する機会を持ちました。生徒たちは、お互いのふるさとの良さを知ると同時に、新たな壱岐の魅力や課題を発見しています。

地域や外部機関と協働した実践を通して、自ら課題を設定し、その解決に向けて主体的に活動していること、発信する経験を通して、課題解決能力、思考力、表現力を高めていることは大きな成果です。

本研究は、まだ道半ばではありますが、この2年間の実践を検証し、本日、研究の内容を発表させていただきます。多くの皆様より御助言をいただき、今後も、持続可能な研究を進め生徒たちの豊かな人間性の育成と学力の向上を目指したいと考えております。

最後になりましたが、本研究を進めるにあたり多大な御尽力と御指導をいただきました長崎県教育委員会、壱岐市教育委員会の皆様、そして本校の研究を支えてくださった壱岐市をはじめ地域の皆様、熊本県小国町立小国中学校や保護者の皆様に心より感謝申し上げます。

令和4年12月9日

壱岐市立勝本中学校
校長 奥田 千穂

I 本校の研究構想

1 研究主題

「豊かな人間性」を育み、「確かな学力」を身に付けた生徒の育成
～地域と協働したキャリア教育の実践を通して～

2 主題設定の理由

(1) 学習指導要領解説総則編より

第1章 総説 1 改訂の経緯及び基本方針 (2) 改訂の基本方針

ア 教育基本法、学校教育法などを踏まえ、これまでの我が国の学校教育の実践や蓄積を生かし、子供たちが未来社会を切り拓くための資質・能力を一層確実に育成することを目指す。その際、子供たちに求められる資質・能力とは何かを社会と共有し、連携する「社会に開かれた教育課程」を重視すること。

イ 知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力等の育成のバランスを重視する平成20年改訂の学習指導要領の枠組みや教育内容を維持した上で、知識の理解の質を更に高め、確かな学力を育成すること。

第1章 総説 2 改訂の要点 (3) 総則改正の要点

総則については、今回の改訂の趣旨が教育課程の編成や実施に生かされるようにする観点から、①資質・能力の育成を目指す「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進める、②カリキュラム・マネジメントの充実、③生徒の発達の支援、家庭や地域との連携・協働を重視するなどの改善を行った。

- ・ 確かな学力を育成すること
- ・ 子供たちに求められる資質・能力とは何かを社会と共有し、
家庭や地域との連携・協働のもとに教育活動を充実させること が重視されている。

(2) 本校の実態

○令和3年度1年生：SDGsの活動の事前事後アンケートより

(アンケートは4：あてはまる、3：ややあてはまる、2：ややあてはまらない、1：あてはまらない、の4段階評価で実施し、その平均値を示している)

	質問項目	事前 R3.5月	事後 R3.12月	差
①	壱岐のいいところを説明することができる。	3.2	3.3	+0.1
②	壱岐の課題を説明することができる。	2.8	3.1	+0.3
③	壱岐の未来のために、どのようなことをすればよいか、説明することができる。	2.6	3.0	+0.4
④	自分たちが住む地域や学校のために、今、自分ができることを考えて行動することができる。	3.1	3.1	0.0
⑤	壱岐の未来のために、自分も行動したいと思う。	3.1	3.1	0.0

昨年度の取組によって、竜崎のいいところや課題について説明することができるようになっており (①、②)、どのようなことをすればよいかも説明できる生徒が増えている (③)。しかし、行動に移すことについては、意識の変容が少なく (④、⑤)、生徒の実践意欲へつなげることは、引き続き課題として取り組んでいく。

(3) 学校評価アンケートより

○昨年度の生徒、保護者、教師アンケートの中から、「地域との協働」に関連する項目を抽出した。
(アンケートは4：あてはまる、3：ややあてはまる、2：ややあてはまらない、1：あてはまらない、の4段階評価で実施し、その平均値を示している)

生徒アンケート (平均 : 3.4)		平均比
⑦地域の行事に積極的に参加することができたか。	2.8	-0.6
保護者アンケート (平均 : 3.4)		
①学校の指導方針が理解できる。	3.5	+0.1
⑩学校は、地域の行事をよく理解し、協力的である。	3.6	+0.2
⑬学校は、地域の人材・保護者を活用した教育活動を行っている。	3.5	+0.1
教師アンケート (平均 : 3.1)		
①(4)学校・家庭・地域融合の下、多様な体験活動をさせる中で、思いやりや共に生きる心を育てる。	2.9	-0.2

保護者は、学校の指導方針を理解し、学校の教育活動に対して協力的である。また、地域のつながりも強く、教育活動に対して多方面から協力していただいている。ここ数年は、コロナ禍により、生徒の地域行事への参加や地域と連携した体験活動が実施しにくい状況にあるものの、感染対策を講じた上で、地域と協働した教育活動で何ができるかを考え実践している。

(4) 学校教育目標とのつながり

学校教育目標：「豊かな心と向学心を持ち、夢に向かって主体的に生きる生徒の育成」

めざす生徒像

- 思いやりがあり、豊かな心を持った生徒
- 向学心を持ち、考える力を身に付け、正しい判断のできる生徒
- 主体的に生きる力を持った生徒
- 夢を持ち、その実現のために努力できる生徒

以上のことから、生徒に「豊かな人間性」を育み、「確かな学力」を身に付けさせるためには、地域と協働して教育活動を行うことが極めて効果的であり、キャリア教育にも深く結びつくものであると判断し、本研究主題を設定した。

3 研究主題の捉え方

○「豊かな人間性」とは、

自らを律しつつ、他人と協調し、他人を思いやる心や感動する心。今回の学習活動では、ふるさとを愛し、壱岐の課題を主体的に解決しようとする意欲を養う。

○「確かな学力」とは、

自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する力。今回の学習活動では、壱岐の課題を見付け、解決する方法を考え、実践していくことで、課題対応能力を養う。また、学習した内容をわかりやすく伝えるための表現力を養う。

○「地域との協働」とは、

①地域の資源を活用した教材開発、②地域の人材を活用した学習活動、③地域行事への参加、④地域への貢献活動、⑤SDGsの取組を核とした総合的な学習の時間を意味する。

○「キャリア教育」とは、

生徒が、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくこと。

4 研究仮説

各教科において、自ら課題を見付けさせ、その解決のために見通しを持った学習をさせるとともに、地域と協働しながら課題を発見し、その解決策を考え、実践するキャリア教育を充実させれば、「豊かな人間性」と「確かな学力」を身に付けた生徒の育成ができるであろう。

5 研究の内容

① 「住みつづけたいまちづくり運動」の開発・実践【1年生】

壱岐市、一般社団法人「壱岐みらい創りサイト」、住環境計画研究所等と協働し、SDGsに関わる学習を行う。年間6回のプログラムと夏休み中の活動を通して、2030年に壱岐がどのような姿であってほしいか、また、壱岐の観光・産業、自然等を守っていくために、自分たちが壱岐市内でできることは何かを考え、実践していく。また、自分たちの考えや実践を保護者や地域の人に向けて発信する。

② 他地域への学習内容の発信【2年生】

2年生は、1年生で行った「住みつづけたいまちづくり運動」を通して学んだ、新たな課題をさらに探究し、その成果を県内外の中学生に向けて発信したり、県内外の中学生とSDGs活動を共有し、協議したりすることで「まちづくり」について学習を深める。このような活動を通して、壱岐の新たな魅力や課題を発見し、今後の自主的な取組につなげていく。

③ 授業改善【全学年】

各教科の授業の中で、課題解決的な授業展開を仕組み、キャリア教育につなげて、課題対応能力の育成を図る。また、地域を題材とした学習を取り入れ、ふるさとキャリア教育につなげる。

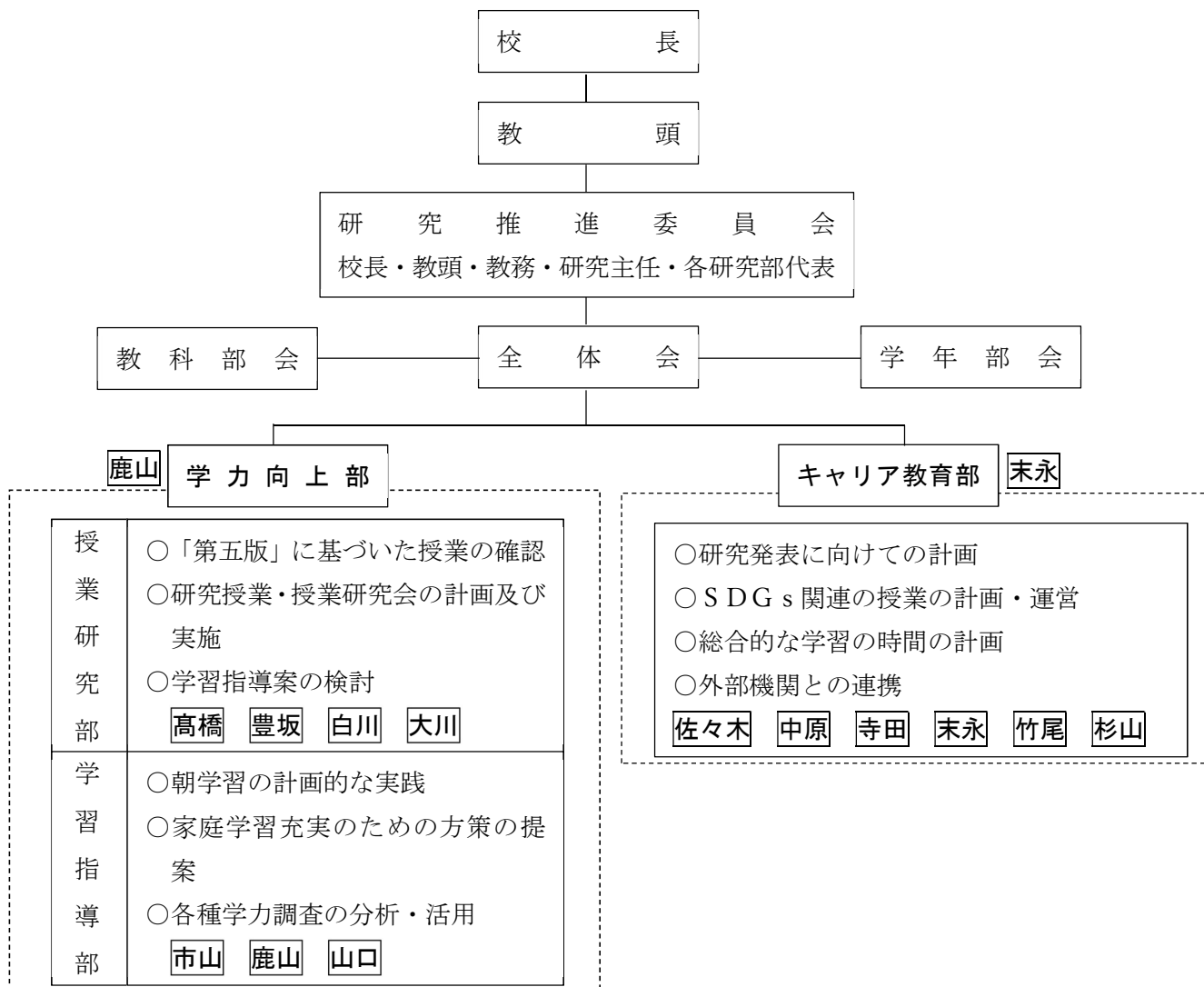
④ アンケートの実施・分析

各取組の前後で、キャリア教育を通して、ふるさとを愛し、地域に貢献しようとする態度などについて、意識の変容を見取るアンケートを実施し、取組の充実に生かす。

6 検証の方法

- 活動計画の「ふりかえる」過程における、生徒の振り返りシートの記入内容から、研究内容の検証を図る。
- 生徒の意識調査を年間2回実施し、変容や結果を分析することで、研究内容の検証を図る。

7 研究組織



II 実践内容

1 1年生の取組

(1) 1年間の活動計画

過程	月	活動	内容
つかむ	5月	①SDGs個人調べ学習	・個人でインターネットや本を使って、SDGsの17の目標の中で、よくわからないものについて調べる。
	6月	②住みつづけたいまちづくり運動第1回	・テーマカードをもとに、自分たちのグループが、どのテーマについて、取り組んでいくのかを決定する。 ・選んだテーマに関連して、「2030年に住んでいたい壱岐の姿」を考える。 ・グループで考えた「2030年の壱岐の姿」を一つの文章で表現する。【課題設定】
しらべる	7月	①住みつづけたいまちづくり運動第2回	・第1回で設定した課題を解決するために、「大人に協力してもらってできること」「自分たちにできること」を考える。 ・課題を解決するために、「知りたいこと」「疑問に思ったこと」をまとめ、どのように調べればよいかを考える。
		②住みつづけたいまちづくり運動第3回	・夏休み中に自分たちでできることの活動計画を立てる。 (インタビューやゴミ拾い、ポスター作成など)
	7月～8月	③夏休み中のグループ活動	・各グループで活動をする。
ねりあげる	9月	①住みつづけたいまちづくり運動第4回	・夏休みの活動成果をまとめる。 ・発表用のスライドを作成する。(テンプレートに入力していく)
	10月	②住みつづけたいまちづくり運動第5回	・発表資料を作成する。(スライド、発表原稿)
ふりかえる	11月	①住みつづけたいまちづくり運動第6回	・1グループずつ発表し、聞いている生徒が評価、アドバイスを する。 ・SDGs活動宣言を作成する。 ・活動を通しての振り返りを記入する。
	12月	②授業参観	・授業参観で、保護者を対象に発表を行う。
	2月	③市民対話会	・代表1グループが、壱岐市民に向けて取組を紹介する。

(2) 各過程での具体的な取組

つかむ

① SDG s 個人調べ学習

「SDG s」とは何か、17の項目の中で表示を見ただけではよくわからないものについて、インターネットや本を使って、個人で調べ学習を行う。また、この学習を受けて、興味のある項目について生徒にアンケートを行い、同じ項目に興味を持っている生徒同士でグループを編成する。

② 住みつづけたいまちづくり運動 第1回

グループごとに、テーマを選ぶ。テーマを選ぶ際には、テーマにかかわる写真や簡単な説明が記載されたテーマカードを参考にする。次に、選んだテーマについて、「2030年に住んでいたい壱岐の姿」をグループで考える。思いつくだけ付箋に書いて、模造紙に貼り付けていく。その後、貼り付けた付箋をグループ分けしていく。最後に、グループで考えた「2030年に住んでいたい壱岐の姿」を分かりやすく一つの文章にまとめる。これが各グループにおける【課題】となる。また、自分たちが考える将来の壱岐の姿をイラスト化し、見た人にもイメージしやすくする。

テーマカードの例



グループで意見を出し合う様子



意見を分類し全体に発表する様子



しらべる

① 住みつづけたいまちづくり運動 第2回

自分たちが考える「2030年に住んでいたい壱岐の姿」にするために、できることを考えていく。まずは、「大人に協力してもらってできること」、「自分たちにできること」に分けて考える。次に、知りたいこと、疑問に思ったことを挙げ、調べる方法を考える。また、保護者を中心に大人にも意見を聞き、共通点や相違点について考え、実践内容の検討に生かしていく。

意見を点検してもらう様子



② 住みつづけたいまちづくり運動 第3回

大人に話を聞きに行く場合の計画を立てる。また、自分たちにできることの活動の計画を考える。主に、夏休み中の活動について考える。

③ 夏休み中のグループ活動

グループごとに日程や活動内容を決め、実施する。昨年度は、地域の清掃活動やポスター作成をするグループが多かったが、今年度は、農業を体験したり、自然災害への対策について考えたりするグループがあるなど、生徒の視野が広がり、SDG s 全体をより意識した取組となった。

また、インタビューを行う際には、事前に、挨拶の仕方や質問の仕方等について、体験的に学習した。

毎月行われる牛市の見学



壱岐市役所でのインタビュー



ねりあげる

① 住みつづけたいまちづくり運動 第4回

夏休みの活動についてまとめを行った。活動を通して気づいたことや感じたことなどを出し合い、活動の成果をスライドに入力していく。まず下書きをし、その後、タブレット端末を活用して作成していく。その際、Google スライドの同時編集機能を用い、班員全員で効率よく作成できるようにする。住環境計画研究所の講師から、オンラインで作成のアドバイスを受けた。

パソコンでスライドを作成する様子



② 住みつづけたいまちづくり運動 第5回

スライドを完成させ、発表原稿を作成する。

ふりかえる

① 住みつづけたいまちづくり運動 第6回

グループごとに発表し、互いに評価する。また、住環境計画研究所や壱岐みらい創りサイトの方々にもアドバイスをいただき、スライドや発表原稿の修正を行う。

昨年度の発表の様子



② 授業参観

授業参観で、保護者を対象に発表会を行う。保護者にも評価、感想を記入してもらう。(今年度は12月14日に実施予定)

昨年度の発表の様子



③ 市民対話会

市民対話会で、壱岐市民を対象に発表を行う。壱岐市内の小学生、中学生、高校生がSDGsについて学習した内容を発表する。

昨年度の発表の様子



2 2年生の取組

(1) 1年間の活動計画

過程	月	活動	内 容
つかむ	9月	課題設定	<ul style="list-style-type: none"> 1年時の取組を振り返り、新たな課題を設定する。 課題：SDGsを広めるために中学生にできることは何だろう。
しらべる	9月	①海岸清掃	<ul style="list-style-type: none"> 天ヶ原海岸清掃を行い、ゴミの分析を行う。 里浜の海岸清掃を行い、ゴミの分析を行う。
	10月	②修学旅行	<ul style="list-style-type: none"> 海上保安庁、北九州環境ミュージアム、阿蘇火山博物館でSDGsに関する学習を行う。
ねりあげる	10月	①ゴミの分析結果からの考察	<ul style="list-style-type: none"> ゴミの分析結果からわかることをまとめる。 ゴミを減らすために、自分たちにできることを考える。
		②発信方法の検討	<ul style="list-style-type: none"> クラスを4グループに分け、それぞれの発信の方法を考える。
	11月	③小国中学校との交流	<ul style="list-style-type: none"> 第1回：学校紹介 第2回：活動内容の中間報告 第3回：発表練習
		④発信	<ul style="list-style-type: none"> 各グループで発信する。
		⑤発表内容のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちのグループの成果についてまとめる。
ふりかえる	12月	①小国中学校への発表	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちの取組と熊本県小国町立小国中学校の取組を比較し、新たな視点で自分たちの取組を振り返る。
		②活動のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちの取組についての改善点、今後の課題について考える。

(2) 各過程での具体的な取組

つかむ

1年時のSDGs「住みつづけたいまちづくり運動」の学習内容を振り返り、新たな課題を設定する。SDGsという言葉が広がってきて、認知度も上がってきているが、実際にSDGs達成のために活動ができているという人は少ない。そうした現状から、2年生全体の課題として、「SDGsをより広めるために、自分たちにできることは何だろう」とした。

また、1年時の学習では、10グループ中5グループが、中学生にできることとして、海岸のゴミ拾いを行った。その中で、観光地の近くでも大量のゴミがあること、海外のゴミがあることに興味や疑問を抱く生徒が多かった。そのため、2年生では、SDGs「14 海の豊かさを守ろう」に着目して活動を行い、その学習成果やこれまで学習したこと、修学旅行で学んだことなどを発信し、課題解決につなげていくこととした。

しらべる

① 海岸清掃

壱岐北部の観光地の一つであるイルカパーク横の海岸(天ヶ原)、壱岐西部の里浜海水浴場の海岸の2か所のゴミ拾いを2年生全員で行った。拾ったゴミは壱岐市環境衛生課に協力を依頼し、学校まで運搬してもらった。持ち帰ったゴミをペットボトル、ペットボトル以外のプラスチック、漁具、金属、ガラス、その他に分類し、それぞれの詳細について調べ、個数を数えたり、重量を測ったりするなどして、分析を行った。

海岸清掃の様子

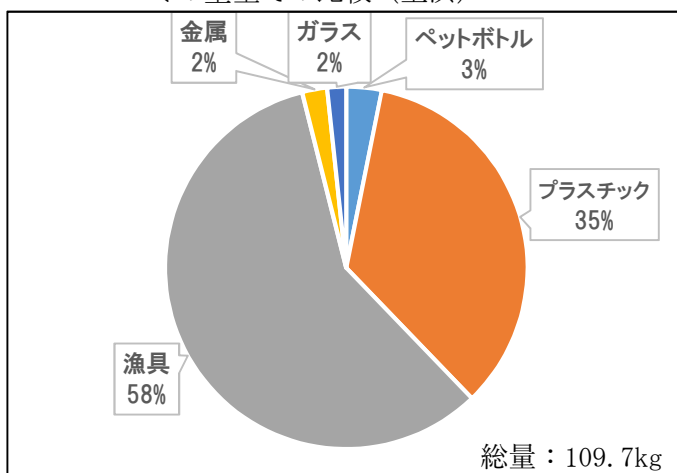


ゴミを分類する様子

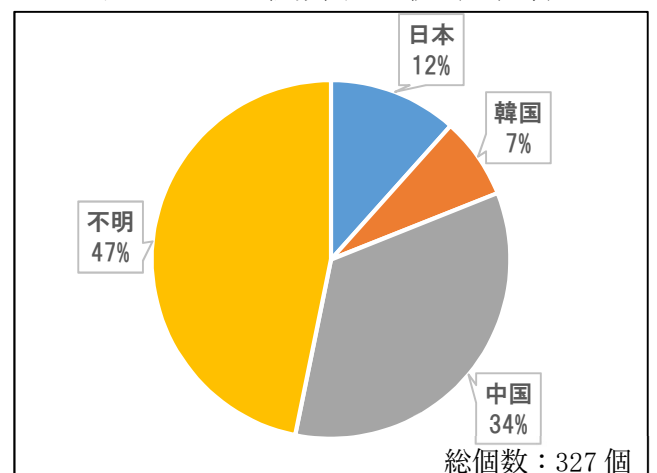


ゴミの分析結果 (一部抜粋)

ゴミの重量での比較 (里浜)



ペットボトルの個数国別比較 (天ヶ原)



② 修学旅行

修学旅行先でSDGsに関する学習を行った。門司の海上保安部では、海外からの漂着ごみの中には不法投棄されたものがあること、北九州環境ミュージアムでは、リサイクルや公害に関すること、阿蘇火山博物館では、防災に関することを学習した。

ねりあげる

① ゴミの分析結果からの考察

2か所のゴミ拾いを実施しての感想、ゴミの分析結果からわかること、疑問に思ったこと、もっと調べてみたいこと、ゴミを減らすために自分たちにできそうなことをグループごとに挙げ、全体で共有した。自分たちにできそうなことの中で、「発信」につながるものを取り上げ、今後の具体的な活動につなげた。

グループで意見を出し合う様子



クラス内で発表する様子



② 発信方法の検討

6～7人の小グループに分かれ、発信の方法を検討した。発信方法については、SNS、紙媒体物品作成等のグループに分かれて考えた。

③ 小国中学校との交流

熊本県の小国中学校と互いの学校紹介や活動内容の中間報告を行った。

④ 発信

発信方法		活動内容		活動内容
SNS	A	SNSを通して、壱岐の現状や魅力を国内に発信する。	E	SNSを通して、中国や韓国に日本でのごみの状況を周知する。
紙媒体	B	紙芝居を作成し、地域の保育園で読み聞かせを行う。	F	手紙を作成し、中国や韓国に向けて発信する。
	C	壱岐の観光地や魅力を発信するリーフレットを作成する。	G	自分たち自身の活動を紹介するために新聞を作成する。
物品作成	D	勝本中学校の取組を紹介したオリジナルクリアファイルを作成する。	H	漂着ごみを活用したオブジェを作成する。

※10月末時点での予定

⑤ 発表内容のまとめ

自分たちの取組を、熊本県で同じくSDGsの学習を行っている熊本県小国町立小国中学校に伝えるための準備を行う。発表は各グループ5分程度とし、自分たちの発信の方法でどのような成果が得られたかわかるように発表資料を作成する。

ふりかえる

① 小国中学校への発表

互いに学習内容の発表を行い、自分たちになかった視点や参考となる意見を取り入れながら、今後のよりよい活動について考える。

② 活動のまとめ

今後さらに、SDGsを広めるためにできることや、今後の新たな課題発見及びその解決について考える。

3 各教科等での実践内容

(1) 総合的な学習の時間【全学年】

① 辰ノ島清掃（7月）

壱岐の観光名所の一つである、辰ノ島海水浴場を、夏の海水浴シーズンの前に、勝本町漁業協同組合の協力のもと、全校生徒で清掃活動を行った。漂着ごみを拾ったり、砂浜の大きな石や貝殻などをふるいで取り除いたりした。

清掃活動の様子



石や貝殻などをふるいで取り除いている様子



② みなと祭

例年、地域の祭りである「みなと祭」に参加している。この3年間はコロナ禍のため中学生の参加はできていなかったが、地域と連携して、来年度以降も参加を計画していく。

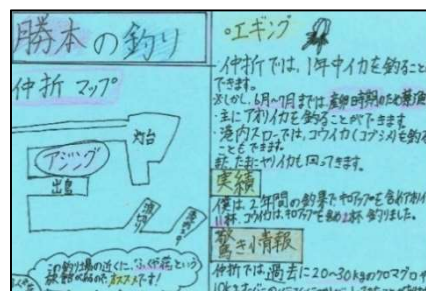
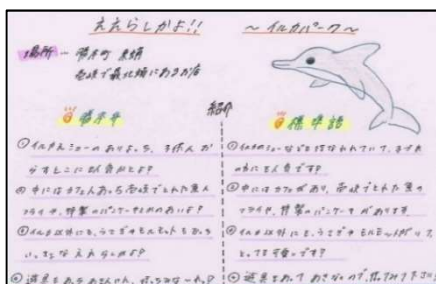
(2) 美術科【2年生】

壱岐のご当地キャラクターを考えた。その際、保護者に質問したり、インターネット等を活用したりして、壱岐の特産品について詳しく調べた。オリジナルのキャラクターには名前をつけ、特徴なども考えた。



(3) 国語科【3年生】

地元を紹介するポストカードを作成した。一般的な観光名所のみならず、方言や地元の人しか知らないような情報など、生徒自身が発想し作成した。できあがったカードは、辰ノ島のフェリー一発着所に置かせていただいた。



Ⅲ 学習指導案

総合的な学習の時間指導案

令和4年12月9日（金）5校時

2年1・2・3組 49名

場 所 体育館

指導者 教 諭 寺田 克彦
末永 竜也
鹿山多恵子
豊坂 恭子

1 単元名 住みつづけたいまちづくり運動を通じた成果と課題の発信

2 単元について

○単元観

- ・本単元は、ふるさとの課題を発見・分析し、適切な計画を立ててその課題を処理し、解決することができる力を養うことをねらいとしている。
- ・本単元は、地域と協働しながら、壱岐の課題を解決する活動を通して、ふるさと壱岐を愛する「豊かな心」を育み、壱岐の将来、そして自分たちの将来について考えることができる価値ある単元である。学校教育目標である、「豊かな心と向学心を持ち、夢に向かって主体的に生きる生徒の育成」につながる内容となっている。

○生徒の実態

質問項目	あてはまる	ややあてはまる	ややあてはまらない	あてはまらない
1年生の時からSDGsの学習を通して、自分はSDGsを意識して日常生活を送っている。	14%	60%	24%	2%
家族はSDGsを意識して日常生活を送っている。	8%	20%	62%	10%
壱岐のいいところを説明することができる。	53%	37%	6%	4%
壱岐の課題を説明することができる。	41%	47%	12%	0%
自分たちが住む地域や学校のために、今、自分ができることを考えて行動することができる。	27%	47%	24%	2%
壱岐の未来のために、自分も行動したいと思う。	39%	51%	10%	0%

- ・本学年の生徒は、1年時からの本単元の学習を通して、SDGsに関する関心を高め、知識も身に付けてきている。また、SDGsを意識して日常生活を送っている。一方、SDGsという言葉は、国内外に広がってきているが、上記アンケートより、生徒からその家族へSDGsの意識が広まるまでには至っていない。
- ・地域のよさを紹介することができ、地域の課題も説明することができるが、実際に地域の中で、地域のために自主的に行動することには、まだ消極的である。

○指導観

- ・指導にあたっては、本校と地域のつながりの強さを生かし、壱岐市や壱岐みらい創りサイト等と連携し、学習プログラムを構築していく。
- ・SDGsをより広めるために、生徒が考えた方法で学習の成果を発信する活動を仕組むことで、地域の将来を主体的に捉える姿勢を養う。その過程で地域との協働によるキャリア教育を体験させることで、「豊かな人間性」を育み、「確かな学力」を身に付けた生徒の育成を図る。
- ・学習活動において、課題の発見やその解決方法を考えさせることで、生徒が主体的に活動できるように仕組み、自ら課題を見付け、自ら学び、考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する力を育成する。

3 単元目標

- ふるさと壱岐が現在抱えている様々な課題を発見し、理解するとともに、適切な計画を立ててその課題解決の方法を調べている。 【知識・技能】
- 他のグループの考えや、熊本県小国町立小国中学校の取組や意見を聞いて、自分たちの考えと比較しながらよりよい方法を考えることができる。 【思考・判断・表現】
- 壱岐みらい創りサイトを始めとした関係機関と協力・協働して課題を解決し、将来の壱岐のことについて主体的に考えようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】

4 単元の評価

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ふるさと壱岐の課題を考え解決する過程において、課題の解決に必要な知識や技能を身に付け、課題解決的な学習のよさを理解している。	ふるさと壱岐の現状から問いを見出し、自分たちで課題を立て、情報を集め、整理・分析し、まとめて表現している。	課題解決に主体的・協働的に取り組もうとしているとともに、関係機関と連携して、積極的に課題を解決しようとしている。

5 指導計画（全36時間）

学習過程	時期	学習活動	時数	評価の観点		
				知・技	思・判・表	態
つかむ	9月	課題設定	1			○
しらべる	9月	海岸清掃	8			◎
ねりあげる	10月	ゴミの分析結果からの考察	2	○	◎	
		発信方法の検討	10	◎	○	
	11月	発信	2		◎	○
		発表内容のまとめ	10	○	◎	
ふりかえる	12月	小国中学校への発表 (本時：2/2)	2		◎	○
		活動のまとめ	1			◎

◎：全員の状況を見取り、記録に残す評価

○：補完のための評価（必要に応じて記録に残す評価）または指導に生かすための評価

6 本時の学習

(1) 本時の目標

SDGsをより広めるために、実践した内容を分かりやすく伝え、小国中学校の発表を聞くことで、自分たちにできることを新たな視点を交えて考えることができる。

【思考・判断・表現】

(2) 授業仮説

「しらべる」、「ねりあげる」過程において、自分たちのグループの活動を発表したり、小国中学校の活動を聞いたりして、共通していることや異なることについて意見を出し合ったりすることで、自分たちにできることを新たな視点を交えて、深く考えることができるであろう。

(3) 展開

過程	学習活動	教師の支援(意図□・評価■)														
つかむ 5分	1 学習課題をつかむ。 ・進行役の生徒が、本時の課題を全体で確認する。	□課題を明示し、ワークシートに書き留めさせる。														
	課題 SDGsを、より効果的に広めるためには、どのように活動していくとよいだろうか。															
しらべる 20分	2 課題解決の方法の見通しを立てる。 ・進行役の生徒が、発表をするときに注意すること、発表を聞くときに注目することを確認する。 ・視点をもって発表し、視点をもって発表を聞く。	□発表を聞くときに、注目する視点を理解させる。 ・各班の発表内容から、視点に沿って、自分の考えを書き留めさせる。														
	持たせる視点 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・どんな工夫をしているか。 ・自分たちになかった視点は何か。 ・共通点及び相違点はどこか。 </div> 発表内容 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th>順番</th> <th>学校・グループ</th> <th>発表内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①</td> <td>勝本中学校 A</td> <td>紙媒体での発信による学習成果について</td> </tr> <tr> <td>②</td> <td>勝本中学校 B</td> <td>物品作成による学習成果について</td> </tr> <tr> <td>③</td> <td>小国中学校 A</td> <td>河川の掃除、河川ゴミの再利用について</td> </tr> <tr> <td>④</td> <td>小国中学校 B</td> <td>植林作業について</td> </tr> </tbody> </table>	順番	学校・グループ	発表内容	①	勝本中学校 A	紙媒体での発信による学習成果について	②	勝本中学校 B	物品作成による学習成果について	③	小国中学校 A	河川の掃除、河川ゴミの再利用について	④	小国中学校 B	植林作業について
順番	学校・グループ	発表内容														
①	勝本中学校 A	紙媒体での発信による学習成果について														
②	勝本中学校 B	物品作成による学習成果について														
③	小国中学校 A	河川の掃除、河川ゴミの再利用について														
④	小国中学校 B	植林作業について														

ねりあげる 20分	<p>発表を聞く生徒</p> <p>3 勝本中学校の他のグループ及び小国中学校の発表を聞きながら、自分たちになかった視点について、ワークシートにメモをとる。</p> <p>【予想される生徒の反応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海だけではなく、地球全体の環境を考えなければいけない。 ・地域によって、できることが異なる。 <p>発表をする生徒</p> <p>4 自分たちが調べた内容を勝本中学校生徒及び、小国中学校生徒に向けて発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進行役の生徒が、時間を区切り、発表会を進める。 <p>【期待したい生徒の意見】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>共通点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どちらも地域の実態をよく調べて、活動内容を考えていると思います。 ・勝本中は海、小国中は山について特に力を入れて、地域の課題にあった活動をしていることだと思います。 <p>相違点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・勝本中は全員が海をテーマに活動しましたが、小国中は地域の現状に合わせて、グループによってテーマを選んで活動していることが違いました。 </div> <p>一斉</p> <p>5 発表全体を通して、考えたことを文章で記述する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進行役の生徒が、書くときに注目する視点を伝える。 <p>6 考えたことを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進行役の生徒が指名し、数名が発表する。 	<p><input type="checkbox"/> ワークシートへの記入が難しい生徒には個別に注目する視点を助言する。</p> <p><input type="checkbox"/> 自分たちの発表内容がわかりやすく伝えるように伝える方法を工夫させる。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>【ねりあげの手順】</p> <p>(1) 他のグループの発表を聞き、自分たちになかった視点についてメモを取っていく。</p> <p>(2) 全てのグループの発表を聞き、共通していること、比較してわかることを考える。</p> <p>《切り込み発問》</p> <p>勝本中学校と小国中学校で共通していること、異なることは何だろうか。</p> </div> <p><input type="checkbox"/> 文章での記述が難しい生徒には、箇条書きでもよいので、書くように助言する。</p> <p><input type="checkbox"/> 各グループの発表を聞いて、記入したメモの内容に共通することはないか考えさせる。</p> <p><input type="checkbox"/> 机間指導を行い、発表の準備ができている生徒を進行役に伝えておく。</p> <p><input type="checkbox"/> 小国中の意見を取り入れて比較し、考えることができている生徒に意図的に指名する。</p>
--------------	---	--

	<p>7 課題を解決し、まとめる。 ・進行役の生徒が、全体のまとめをする。</p>	<p><input type="checkbox"/> 「まとめ」を明示し、ワークシートに書き留めさせる。 <input type="checkbox"/> まとめが出にくい場合は、教師がキーワードを提示する。</p>
ふりかえる5分	<p>8 自己の問題解決の経過を振り返り、今後の学習活動や実生活に生かす。</p>	<p><input type="checkbox"/> 自己の課題解決の過程を振り返る。</p>
	<p>まとめ SDG s を、より効果的に広めるには、地域の実態をよく知り、地域に合った取組をする とよい。</p>	

(4) 評価

SDG s を、より効果的に広めるために、実践した内容をわかりやすく伝えることができたか。
小国中学校の発表を、視点をもって聞き、今後さらにできることを考えることができたか。

【思考・判断・表現】

IV 成果と課題

1 事前事後アンケートより

■ : 当てはまる ■ : やや当てはまる ■ : やや当てはまらない ■ : 当てはまらない

成果

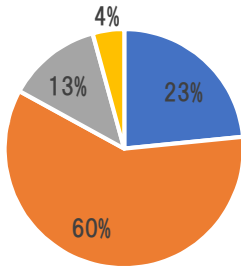
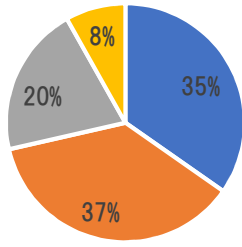
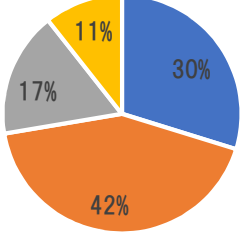
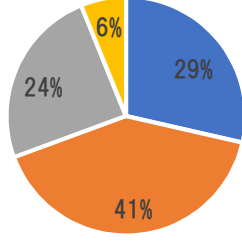
質問項目	R 3 5月	R 4 10月
① 自分たちが住む地域のよさを紹介できる。		
② 壱岐の課題を説明することができる。		

生徒は、学習を通して、壱岐のよさを再確認し、自信を持って紹介できるようになっている。また、よい面だけでなく、壱岐の課題についても理解が深まり、壱岐の課題を解決するために自分たちにできることは何かを考えていく、探究的な学習の成果が表れている。

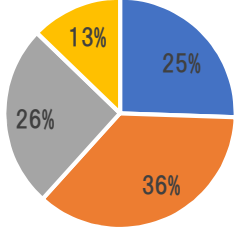
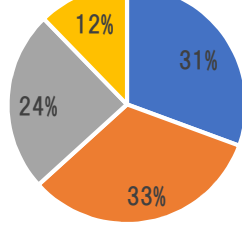
③ 自分たちが住む地域や学校のために、今、自分ができていることを考えて行動することができる。		
④ 壱岐の未来のために、自分も行動したいと思う。		

地域や学校の未来のために、できることに取り組みたいという実践意欲は高まっている。また、自分たちにできることは何かを考える学習を通して、課題解決的な行動力を身に付けつつある。

課題

	質問項目	R 3 5月	R 4 10月
①	自分の適性（自分の性格や得意、不得意など）に合った職業を言うことができる。		
②	自分が将来働く理由を言うことができる。		

将来の職業観に関する質問では、数値が下がった項目があった。現在の1、2年生の取組では、SDGsについて学び、地域のよさを発見したり、地域の課題を解決しようとしたりする活動ができた。今後は、生徒のキャリアプランニング能力の育成につなげるという視点にもさらに重点をおいて、キャリア教育を進めなければならない。そのために、壱岐市のSDGs推進に関わっている方々や、壱岐の課題を解決するために活動されている方々と連携し、自分たちが行っている取組と将来の職業についてのつながりを見い出せるようにしたい。

	質問項目	R 3 5月	R 4 10月
③	将来、壱岐に住みたいと思う。 （いったん壱岐を出て、戻ってくる場合も含む）		

学習を通して、生徒の地域に対する愛着を育むことができたが、将来、壱岐に住みたいかという質問に対しては、3分の1以上の生徒が、否定的な回答であり、取組の前後でもあまり変容が見られなかった。生徒は地域のよさを見だし、課題を解決する取組を实践したことを通して、新たな魅力も感じている。働く場所などの離島がかかえる課題を、自分自身の問題として捉えていることもうかがえた。本学習で地域の課題解決だけでなく、地域のよさに更に目を向け、住みつづけたいまちについて、SDGsの視点を入れて考えていく学習を進めることで、意識の変容が生まれると考える。

2 各学年の取組より

(1) 1年生の取組

- 成果**
- ・ 壱岐みらい創りサイト、壱岐市SDGs未来課、住環境計画研究所などと協働した学習プログラムが確立し、今後も持続可能な取組となった。
 - ・ グループごとに課題を設定し、その解決のために計画を立てて取り組む活動を通して、課題対応能力を身に付けさせることができた。
 - ・ 生徒が興味ある内容をもとに、自ら課題を設定したため、全体を通して意欲的に取り組む生徒が多かった。
 - ・ 1年目終了時に、壱岐みらい創りサイトの担当者と振り返りを行い、活動計画を立てるときに、保護者や地域の人々の意見を取り入れたり、時間を多く確保したりすることで、2年目は生徒がスムーズに思考しやすくなった。
 - ・ 2年目は、テーマが「環境」に偏ることなく、SDGs全体に視野を広げた取組ができるようになった。

- 課題**
- ・ 生徒の活動が主に夏季休業中になり、教員の引率や実施状況の把握が難しい場面があった。
 - ・ 壱岐みらい創りサイト、壱岐市SDGs未来課、住環境計画研究所等の協力体制があるからこそ、充実した取組となっているが、学校独自で同様に実践していくには、学習プログラムの進め方や準備に関して、教員の研修が必要となる。

(2) 2年生の取組

- 成果**
- ・ 1年時の学習とのつながりから課題を設定し、さらにSDGsの理解を深める内容となった。
 - ・ 生徒主体で課題を設定し、その解決のために主体的な学習活動を仕組むことができた。
 - ・ 「発信する」という活動を通して、どのようにすれば伝わるかを生徒が考え、実践することで、思考力、表現力を身に付けることができた。
 - ・ 住みつづけたいまちづくりへ貢献しようとする意欲を高めることができた。

- 課題**
- ・ 昨年度の1年時の取組の内容を踏まえ、新たに今年度の2年生の活動内容を考えたため、計画に時間がかかり、実際に活動を開始するのが遅くなった。持続可能な取組とするためには、活動を体系化し、学習の進め方を明確にする必要がある。
 - ・ 生徒主体で発信方法を考えさせた際、アイデアが出にくかったり、自分たちでSNSに投稿するなどのアイデアが出ても実現が難しかったりする内容があった。
 - ・ 発信をした結果、発信した相手にどのような変容があったのかを見取る方法が難しい内容があった。今後、授業参観での発表や市民対話会での発表を通して、参加した方々の感想などを聞き、変容を把握していきたい。

3 本研究全体の成果と課題

成果

- ・ 壱岐市、壱岐みらい創りサイト、住環境計画所、門司海上保安部、北九州環境センター、勝本町漁協、熊本県小国町立小国中学校など、多くの関係機関と連携し、地域と協働的な学習を進めることができた。
- ・ SDGs の学習を軸として、1年時に学習したことを生かして、2年時の学習を深めることができた。
- ・ グループ活動を通して、他者の意見を受け入れることで、他者と協調することの大切さを学ぶことができた。
- ・ 小国中学校との交流を通して、生徒の視野が広がり、他者の意見を聞いて自分たちの活動に生かすことができた。
- ・ SDGs に関する知識や実践意欲が高まり、修学旅行先でも、環境や防災に関して、積極的に学ぼうとする姿勢が見られた。
- ・ 学校生活の中でも、給食のストローを無駄に使わないようにしたり、節水に心掛けようとしたりするなど、ふるさとと環境等に関心を持ち行動に移そうとする生徒が見られるようになった。
- ・ 発信したり、発表したりする活動を通して、どのようにすれば伝わるかを生徒が考え、実践することで、思考力、表現力を身に付けることができた。
- ・ グループごとに、ふるさと壱岐の課題を見付け、その解決のために計画を立てて取り組む活動を通して、課題対応能力を身に付けることができた。
- ・ 自分たちの活動が、ふるさと壱岐のためになっているという実感を生徒が、抱きやすい取組を仕組むことができた。
- ・ ふるさと壱岐の魅力を再発見したことで、ふるさと壱岐を愛し活性化するために、自分ができることに取り組もうとする、実践力を育むことができた。

課題

- ・ 持続可能な取組とするために、活動内容を体系化、簡略化し、どの職員が担当しても実施できるようにする必要がある。
- ・ SDGs は 2030 年を目標とした取組であるため、さらにその先を考えた取組を考えていく必要がある。

おわりに

生徒たちが暮らす壱岐は、四方をきれいな海に囲まれ自然豊かで、新鮮な魚介類や壱岐牛などの食べ物もおいしく、魅力的な島です。しかし、壱岐の人口は、昭和 30 年をピークに減少へと転じ、令和 4 年 9 月末現在、25,060 人となっています。また、このまま人口減少が続くと、2030 年には 22,000 人を下回るという予測もあります(総務省「国勢調査報告」平成 25 年)。高校卒業後に、進学及び就職を理由に市外へ出る生徒が約 9 割を占め、結果として、基幹産業である第一次産業では後継者不足が続いているという状況です。人口減少を抑え、産業を活性化し、壱岐の魅力を発信していくことが喫緊の課題となっています。

本研究では、「地域ぐるみでふるさとの課題解決を目指した探究的な学習に取り組む体制整備を行い、ふるさとを活性化する自立的・継続的な学習に取り組み、ふるさとを担う実践力を育むこと」を目的として、壱岐市 SDG s 未来課・一般社団法人壱岐みらい創りサイト等と連携して壱岐を担う人材育成のための学習プログラムを開発してまいりました。総合的な学習の時間「住みつづけたいまちづくり運動」の学習の中で、生徒たちは 2030 年に壱岐がどのような姿であってほしいか、ふるさとの観光や産業、自然等を守っていくために自分たちができることは何かを考え、主に地域の清掃活動やふるさとの魅力発信等、実現可能で、持続的な活動を主体的に取り組んできました。

地域を担う人材を育成するため、壱岐市や地域社会が協働して、ふるさとの「ひと・もの・こと」を活用した教育により、本研究の目的は概ね達成できたものと実感しております。そして、何よりも本研究を通して、本校の生徒たちや教職員が壱岐の魅力について再発見できたこと、さらに、ふるさと壱岐を愛し、ふるさと壱岐を活性化するために貢献したいという意欲や実践力が高まったことが大きな成果であります。今後も、壱岐だけではなく、ふるさと長崎をよりよくしていこうと考え、地域の課題解決のために主体的に行動できる人材育成に努め、「地域を元気にする学校」「地域に活力を与える学校」を目指していきたいと考えております。

本校における本格的な研究は 2 年目で、まだまだ十分ではありませんが、その方向性や教職員の思いは確かなものであると信じております。本研究に多大なる御協力と御支援をいただいた地域の皆様や本研究を進めるにあたり御指導・御助言をいただいた長崎県教育委員会、壱岐市教育委員会の皆様並びに関係者各位に感謝申し上げます、今後一層の御支援を賜りますようお願い申し上げます。

令和 4 年 1 2 月 9 日

壱岐市立勝本中学校
教頭 岳野 高道

研究同人

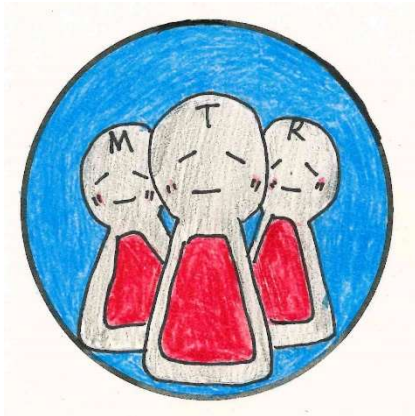
令和3年度

校長	川上 康	教頭	岳野 高道
教諭	中尾 憲治	教諭	寺田 克彦
教諭	竹尾 勝彦	教諭	中原 昭雄
教諭	長嶋 亜希子	教諭	佐々木 孝浩
教諭	杉山 晴美	教諭	中山 逸平
教諭	山口 聡仁	教諭	市山 昭子
教諭	大川 潤	教諭	高橋 佐千子
教諭	末永 竜也	教諭	米倉 愛菜
講師	宮原 藤子	講師	大久保 浩三
養護教諭	吉永 弘美	教育支援非常勤講師	米倉 徹
事務主査	宮下 哲裕	用務員	西 真寿美
特別支援教育支援員	長嶋 和美	ALT	ケビン マッカスリン
心の教室相談員	松崎 妙子	スクールカウンセラー	松本 敦史

令和4年度

校長	奥田 千穂	教頭	岳野 高道
教諭	寺田 克彦	教諭	竹尾 勝彦
教諭	中原 昭雄	教諭	豊坂 恭子
教諭	鹿山 多恵子	教諭	佐々木 孝浩
教諭	杉山 晴美	教諭	山口 聡仁
教諭	市山 昭子	教諭	大川 潤
教諭	高橋 佐千子	教諭	末永 竜也
教諭	米倉 愛菜	講師	白川 愛結美
講師	堀川 諭	養護教諭	吉永 弘美
教育支援非常勤講師	米倉 徹	事務職員	村崎 傑
用務員	西 真寿美	特別支援教育支援員	長嶋 和美
特別支援教育支援員	長嶋 ひなみ	ALT	ケビン マッカスリン
心の教室相談員	松崎 妙子	スクールカウンセラー	松本 敦史

MEMO



勝本浦の風景